編集後記

◆ 我が国の金属鉱山の数は，1960年代の隆盛を境に以後は減少の一途をたどり，かつては世界的規模と生産量を誇った幾多の大鉱山・名鉱山が次々と姿を消し，1980年代には片手で数えられるほどになってしまいました．資源の枯渇や採掘条件の劣化もさることながら，輸入原料との価格差が閉山を余儀なくされた最大の要因でした．

そうした厳しい逆風に耐えて，多金属の鉱山として21世紀に生き残ったほとんど唯一の存在が北海道の豊羽鉱山なのです．貴重な鉱山の生い立ちと生き残りの秘密を，冒頭の記事から読み取って下さい．

◆ 日本が阪神淡路大震災（1995）の痛手から立ち直りつつあった1999年，今度はM7.6の大地震が台湾を襲いました．後に集集地震と名付けられたこの地震では，被害のすさまじさと共に，建造物の杜撰な工事の実態があからさまになったことでも，生々しい印象を我々に残しました．因みにこの年はトルコでも立て続けに2度の大地震に見舞われ，構造物の脆さは天災と人災の複合の恐ろしさを教えてくれているようでした．

集集地震の後，台湾でも地震断層の研究が進展し，とりわけ活断層の研究に新しい展開がもたらされる結果となりました．最前線の研究の動向を太田陽子さんの解説でお読み下さい．

◆ 古野正憲さんからは世界銀行のワークショップの話題をお寄せいただきました．アジアにおける旧共産圏から市場経済へ移行しつつある国々の鉱物資源ポテンシャルがテーマです．これら諸国の資源開発への先進国からの投資を促すプロジェクトの一環とのことですが，日ごろ馴染みの少ない地域での資源評価の内容は，今後の注目を集めることになりそうです．

◆ 地学フォト巡検記は久々の登場です．今回は滋賀県竜王山の花崗岩の奇観をお楽しみいただきます．実は原稿は大分前に投稿されていたのですが，グラビアとの折り合いがなかなかつかず，ついつい遅くなってしまいました．お詫びいたします．

また，新しい企画として，短歌に詠みこまれた地質現象を探す試みを連載することになりました．地質学の慣用語が現代歌人のどんな琴線を揺るがすのか，大いに興味をそそられるところです．

◆ 地質ヤには当たり前の「巡検」という述語も，馴染みのない研究者には古めかしく奇異に感じられるようです．深部地質環境研究センターの地質巡検記第2部には，そのような工学系研究者の感想が綴られています．異なった専門分野からの視点は新鮮で，境界領域の研究において，互いに資するところの多かった経験になったようでした．

◆ 夏枯れのせいか，このところ手持ちの原稿が乏しくなってきました．3号ほど石原舜三さんのご寄稿に救われています．石原さんのご健筆には脱帽の他はありませんが，現役，特に若手の投稿が少ないのは寂しい限りです．文章を書くことには経験が物を言います．本誌を有効に利用して筆力を鍛え，併せて自らのPRを図ってはいかがでしょうか．皆様のご投稿をお待ちしております．（遠藤祐二）

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委　員：磯部一洋・七山　太・中島　隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター　地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 0298−61−3754
Fax. 0298−61−3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第564号　2001年　8月号
定価￥785（本体価格￥748）〒実費
2001年8月1日　発行
編集　産業技術総合研究所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel.（03）3265−0951（代表）
Fax.（03）3265−0952
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　株式会社　エアフォルク

© 2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．